連雀学園

連雀

平成２７年度　連雀学園の評価・検証　結果報告

検証項目	（１）　人間力・社会力の育成 ○他者との適切な関係を構築する力の育成　○他者と共に自己実現を図っていく力の育成　○地域や社会等へ貢献する力の育成　○その他
目標	・小・中の発達段階に応じて地域の人財や教育力を活用した教育活動の充実を図る。
取組	・小学校各校の支援組織を活用して、教科の授業やキャリア・アントレプレナーシップ教育の充実を行うと同時に、中学校の教育活動の支援を行う。

成果	課題と改善方策
・学園全体では、キャリア・アントレプレナーシップ教育活動の充実が図られた。第四小では、年間指導計画に基づく実践を通して効果の検証を行った。特に、生活科で実践した単元につき、児童が問題意識を高めて取り組めたことに成果ががあった。中、高学年においても実践を通した改善が見られる。第六小では、10月の学園公開はキャリア・アントレプレナーシップ公開として全学年でキャリア・アントレプレナーシップ教育の授業を公開し、また校内の掲示物もそれに合わせて学年の活動の説明を実施したことで、キャリア・アントレプレナーシップ教育についての理解が高まったことが評価に表れた。第一中学校では、2年生は9月の職場体験において、CS委員会にも紹介してもらった職場で、充実した体験ができた。1年生の職業人の話を聞く会に向けて、CSサポート部の支援を得て準備を進めている。第一中学校では夢育支援ﾈｯﾄﾜｰｸによる定期考査前の自習教室が定着し、地域人財による支援の取り組みが進んだ。	・キャリア・アントレプレナーシップ教育は、児童や地域の実態に即した目標、内容の見直しを今後、さらに行っていく。また、児童にとってキャリア・アントレプレナーシップ教育の意図がまだ十分に伝わっていない面があるので、目標を明確にし発達段階に応じた具体的な活動を通して実践する。 ・各学校の実践を通して、保護者への周知と理解は高まっているがさらに広報活動による周知が必要である。

検証項目	（２）　学校運営について ○小・中一貫教育校の学園組織の活性化　○小・中一貫教育校の教員間、学校間の交流の円滑化　○小・中一貫教育校の校務、会議の効率化　○その他
目標	・学園の組織を活性化させ、各学校の組織との連携のもとに、組織的な課題解決力を高める。
取組	・学園の研究推進委員会の活動の充実を図るとともに、校務支援システムを活用した効率的な学園・学校運営を行う。

成果	課題と改善方策
・各学校とも、共有フォルダ、メール、回覧、掲示板などは有効に活用されており、情報の発信者としての意識も高くなった。例えば回覧板での既読マークのほかに、何か一言コメント入れることを励行し、素早い既読に努めた。職員の発案で、簡単なアンケートは回覧板上のコメントで集約することを実行し、全既読の返答時間を早めるとともに、回覧板や掲示板をさらに有効に活用することに役立てている。	・校務支援については、整理・統合、ICT化、役割と責任を徹底し、児童と向き合う時間の確保を目指していく。 ・また、全員が情報の発信者となるなど、回覧板やメールでの情報のやり取りは日常化した。ペーパーレスを一層進めていく。 ・ICTの苦手な一部教員が十分活用できておらず、今後意識の向上を図る必要があり、手立てを工夫していく。 ・分掌組織を見直すことも視野に、さらに校務改善を推進する。

検証項目	（３）　小・中一貫教育校としての教育活動 ○小・中学校間相互乗り入れ授業　○小学校相互、小・中学校間の児童・生徒の交流活動　○小・中学校教員の合同授業研究等の学園研究会 ○キャリア教育及びそれに基づく小・中の系統性と連続性を明確にした授業実践、授業改善の状況　○その他
目標	・連雀学園の実施方策に基づき、小・中一貫の教育活動の充実を目指す。
取組	・学園研究会を充実させ、小・中一貫教育校としてのカリキュラムの開発と授業改善を行う。 ・児童会・生徒会交流の充実を目指すと同時に、それぞれの交流活動の意義を見直し、活動の改善を行う。

成果	課題と改善方策
・学園全体として問題解決学習や知的コミュニケーションを中心とした研究に教員の意識が高まっている。2月の研究奨励校としての発表を目指し、研究の理論についての研究が深まり、視点を明確にして学園内の他校の研究授業に参加できるようになった。 ・研究全体会も会を重ねるごとに、教科分科会ごとに、工夫して授業、研究会を行っている。2月19日の研究発表に向けて、研究紀要、当日の指導案作成など進行管理表に基づいて準備を進めていく。教員のよりよい授業つくりについての意欲は十分に高まってきた。 ・9月の子ども熟議を踏まえた、児童会・生徒会交流を行った。これまで以上に活発な交流会が実施できたことは大きな成果である。また、教員の意識も高まってきた。生徒はもっと主体的に関われるという意識が高く、更なるレベルアップを図りたい気持ちが評価に表れていると考える。 ・小中一貫カリキュラム（特に単元系統配列一覧表）を完成させ、次年度以降の9年間を見通した授業の実践を更に充実させる道筋を作った。	・来年度から、新たな学園研究が始まる。今日的な教育課題（主体的・協働的な学習、体力向上、特別の教科　道徳）について研究と実践を深めながら、新学習指導要領への対応と、教職員の指導力向上、授業改善に努めていく。 ・児童会・生徒会交流については、1学期の小・中のたてわり活動の成果を生かし、委員の生徒を中心に具体的な計画案が考えられるなどの進展が見られた。今後は小学生の活躍の場をどのように設定していくかを検討し改善する。

検証項目	（４）　児童・生徒の学力・健全育成 ○　児童・生徒の学習意欲　○　各学年での児童・生徒の学習内容の定着状況（習得、活用、探究） ○　小学校と中学校の評価の一貫性　○　不登校、学校不適応等に関わる児童・生徒の指導・支援
目標　学力	・一人一人の児童・生徒がわかる楽しさ、できる楽しさ、かかわる楽しさを実感できる授業づくりを推進する。
目標　健全	・あたたかい人間関係とよりよい生活習慣、運動を楽しむ意欲を育てる。
取組　学力	・問題解決学習、知的コミュニケーション、ノート指導、家庭学習への支援などをキーワードに、授業改善を行い、学力の向上を目指す。 ・三鷹「学び」のスタンダード（家庭版）などをもとに、学園としての家庭学習への支援の在り方を各家庭に示す。
取組　健全	・挨拶運動の改善、充実などを通して、挨拶の励行を行い、全学園にあたたかい人間関係を育てる。 ・自分の健康や体力に関心を持ち、それらの向上に向けた取組を自主的に行うことができる児童・生徒を育成する。

成果	課題と改善方策
学力 ・学園研究で高めた問題解決過程や知的コミュニケーションの授業を他教科でも生かそうとする教員が増えてきている。 ・9月に「連雀『学び』のスタンダード」（家庭版）をより使いやすく修正した「連雀『学び』のスタンダード」（わが家のスタンダード）を配布した。よりよい家庭学習習慣・生活習慣つくりを進めていくために有効である。 ・定刻に始まること、授業中の私語、忘れ物、教室環境の整備等授業態度の指導については、引き続き全校で共通実践をしている。さらに「楽しい」、「わかる」、「できた」と実感できる授業を展開するための研鑽を積み重ねている。	学力 ・今後も4校で目標を明確にて研究組織、教科等を工夫しながら学園研究を推進していく。 ・「連雀『学び』のスタンダード」（わが家のスタンダード）を活用し、さらに有効な支援となるよう検討を加えていく。 ・学園保護者アンケートでは家庭学習評価の数値は低い。保護者が子供の家庭学習について効果を実感できるよう、さらに取組を進めていく。 ・「連雀『学び』のスタンダード」（わが家のスタンダード）の活用を保護者にその使い勝手や実践効果を聞きながら、改善をし、さらに周知を図りながら定着を図る。
健全育成 ・各学校で挨拶についてもめあてを定め、それを実践・評価していくことで挨拶の活性化が図れた。第四小では各学級でめあてを設定し、それの達成を目指して取り組んだ。また、第六小では、担任による全児童面談を実施し、友人関係や日ごろの悩みなどについて聞き取った。それらを今後の学級経営に活かすとともに、緊急に取り組む課題について、迅速に取り組むことができた。さらに、南浦小では、児童の実態に応じた「学級の時間」の活用が進められている。全校朝会での校長講話や代表委員会からの話で、「いじめ」等については継続して話をしてきている。そのまとめとして2学期末に代表員会による「南浦小学校をよりよくしよう」という内容で、「子どもが取り組むあいさつ運動」や「いじめゼロに向けた劇」を実践した。 ・各学校でなわとび週間、持久走週間など、体力を高める取組が継続的に実施され、児童、生徒もめあてを明確にもって参加している	健全育成 ・挨拶については、継続的な指導がないと意識が低下する場合がある。今後は挨拶運動だけでなく日常の習慣化に重点をおいた指導を行っていく。 ・全員面接や、いじめゼロの取り組みは今後も継続しながら、さらに改善を図っていき、温かい人間関係をつくる。 ・体力テストの結果、反復横跳び、握力などが課題としてあがってきている。課題を解決するための学習活動の在り方を検討していく。

検証項目	（５）コミュニティ・スクールの運営 ○　コミュニティ・スクール委員会の組織・運営　　○　保護者、地域住民の学校運営への参画の状況 ○　学校と保護者、地域住民との連携・交流　　○　その他
目標	・コミュニティ・スクール委員会の効率的な運営を行うと同時に、CS各部の活動を充実させる。
取組	・年8回のCS役員会の機能を充実させ、効率的な議事の進行と協議の活性化を目指す。 ・CS広報部を中心に、学園NEWSやHPなどの計画的な発行、更新を行い、発信力のある広報活動を目指す。

成果	課題と改善方策
・9月に3月までのCS委員会で検討すべき各回ごとの議題を確認し、それに向けての資料作成を見通しをもって行えるようにした。また、事前にCS役員会を開催し議題の整理や懸案事項の事前審議を行うことで効果を上げている。 ・今年度CSガイドを作成した。　・ 広報活動、HPアップに前年度以上に努めた。 ・「連雀『学び』のスタンダード」（わが家のスタンダード）を配布し、活用している家庭にその効果等を聞いた。	・CS全体で話し合う機ををさらにもつことが必要で、その機会を計画的に確保していく。 ・次年度さらに「連雀『学び』のスタンダード」（わが家のスタンダード）の活用を広げるような改善を保護者の意見を参考にしながら工夫する。

平成27年度　の評価・検証結果のまとめ

（１）から（５）の検証結果を踏まえて	１　「小中一貫教育」及び「コミュニティ・スクール」の取組において特によい成果が得られたこと ・今年度学園研究発表会にむけて、4校で「創みだし、かかわり、高め合う児童・生徒の育成」という研究主題のもと、「問題解決過程における知的コミュニケーションを通して」という副主題で研究で取り組むことを明確にして、学園研究に取り組み、学園の児童、生徒に問題解決能力やコミュニケーション能力をつけることができた。またそのことを通して、児童、生徒の学力および社会力、人間力を高めることができた。 ・コミュニティ・スクール委員会のサポート部の企画のもとに9月に実施した子ども熟議では「こんな学園にしていきたい！－私たちの考える理想の連雀学園－」ををテーマに各学校の代表者同士で熟議を行い、児童、生徒の心を豊かにする活動が充実した。そこでの話し合いをもとに、児童会・生徒会での話し合いが行われ、不要な本のを集め、それを換金して寄付をするという学園の自発的な取り組みにつながった。
	２　今年度に明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること ・「連雀『学び』のスタンダード」（わが家のスタンダード）をコミュニティ・スクール委員会で作成し、9月に全家庭に配布したが、まだ周知が足りない。今後、活用した保護者の意見を参考にしながら、家庭学習や生活習慣の確立にさらに活用を広げていく工夫をすることを、次年度の重点にしていく。
	３　「２」の重点課題を解決するための改善策 ・保護者の意見から「連雀『学び』のスタンダード」（わが家のスタンダード）をより活用しやすいように改善し、保護者に再提案していく。 ・コミュニティ・スクール委員会で、この「連雀『学び』のスタンダード」（わが家のスタンダード）の提案からの1年間の取り組みを計画し、継続的に実施していく。